

地域保健推進室からのお知らせ

学生保健サポーターが地域で活躍しています！

2016年から前橋市若宮地区で定期開催している「群大保健学まちなか交流サロン」は、保健学科が養成した学生保健サポーターが主体となって企画・実施し、地域の高齢者と交流を図っています。近年では、子ども食堂、子育てサロン、高齢者サロン、認知症を語るカフェなど、地域で行われている様々な活動に学生が参加し、参加者との交流や運営補助を行っています。参加者からは「楽しかった」「学生さんと話すと元気になれる」「また来てほしい」などの声をいただいています。学生保健サポーターの活躍の場はますます広がりをみせています。



まえばし 地域共生フォーラム
～持続可能な地域コミュニティを目指して、多様な主体との連携を考える～

日時：令和6年2月17日（土）
13:30～15:30（開場13:00）
会場：前橋市総合福祉会館2階 多目的ホール
（前橋市日吉町2-17-10）

◆基調講演 「地域と多様な主体との連携」（仮題）
群馬県福祉大学 中越 信一氏

◆パネルディスカッション テーマ～協働におけるそれぞれの視点と工夫～
【実践報告】①「若宮地区x群馬大学」の取り組み
②「大和郡司x NPO 法人ソリリサ」の取り組み
③ 専門職の立場から 前橋栄養士会
④ 企業の立場から 群馬ヤクルト販売株式会社

資料提供：前橋市社会福祉協議会

これまでの活動を評価していただきました

これまでの地域と協働した学生主体の取り組みを評価していただき、前橋市社会福祉協議会主催の『まえばし地域共生フォーラム』のパネルディスカッションに招かれました。一般市民400名以上の参加の中で、群馬大学の取り組みとその成果を報告しました。今後も地域の方々と連携・協働しながら活動を発展させていく予定です。



若宮地区との連携活動の成果

地域の方への効果

- ・地域の方の元気につながった
- ・「また来てね」「話ができて元気になった」
- ・普段地域活動に参加しない方の活動参加のきっかけになった
- ・地域活動のアイデア・根拠を提供できた

学生の効果

- ・色々な世代の人と話すのが好きになった
- ・地域で暮らす高齢者の思いや暮らしの理解が深まった
- ・参加者に喜んでもらえたり「ありがとう」と言われ励みになった

群馬大学大学院保健学研究科附属研究・教育センターとは

群馬大学医学部保健学科及び大学院保健学研究科では、社会の課題解決を目指して、研究、教育、地域保健活動、国際保健活動に積極的に取り組んでいます。これらの活動を進めるための組織として保健学研究科附属研究・教育センターが設置され、このセンター内には5つの推進室があります。今回は地域保健推進室からの報告になります。

私たちの活動をご覧いただき、ご意見をお聞かせください。

アンケートへのご協力をお願いいたします。⇒

お問合せ先：保健学研究科長 齋藤貴之（tsaitoh@gunma-u.ac.jp）

